

混雑時の西里駅で乗客整理

JR上熊本駅の岡崎駅長 ソフトな対応 巧みに誘導

日頃から多くの学生、教職員が利用しているJR西里駅。授業日の夕方ともなると、駅構内から列車待ちの人があふれだすという光景も珍しくありません。「こうした状況を少しでも改善したい」。管轄する上熊本駅の岡崎康晃駅長は、4月の赴任直後から、時間を見つけては夕方の混雑時間帯に西里駅に向き、混雑整理にあたっています。39歳の青年駅長。フットワークの軽さで学生たちからも感謝されています。



「ホームの先までお進みください。跨線橋を渡ってホームに降りてくる学生たちに、拡声器を使って声を掛けてJR上熊本駅の岡崎駅長

無人駅とはいえ、西里駅の1日の利用は約1800人に上り、そのうち8割近くが駅に隣接する本学の学生と教職員で占めています。このため、平日夕方の授業終了直後ともなると、列車を利用する学生たちがホームに殺到。日によっては、線路をまたぐ跨（こ）線橋まで人で埋まることもあります。不測の事態も懸念される混雑状況は、岡崎駅長も赴任直後から気がかりだったそうで、「まずはできることから」と、自ら駅頭に立つことにしたといいます。

21日（月）夕方、混雑が予想される熊本駅方面行き普通列車（18時6分発着、3両編成）に合わせ出勤。到着の20分ほど前から拡声器を手にし、制服姿でホームに立つと、跨線橋にまで達した人

の波をソフトな呼び掛けで巧みに誘導。短時間で1人の積み残しもなく乗車させることができました。

「この混雑ぶりは、バッグを前に持って乗るといった乗客のマナーまかせだけでは改善できるものでもありません。簡単に車両を増やすこともできませんので、今後も時間が許す限り混雑整理にあたりたい」と岡崎駅長。駅の混雑ぶりに「びっくりした」という1年生は、「こうやって整理してもらえると安心です」と話しながら、車両に乗り込んでいました。

なお、混雑時には本学警備員の皆さんも大学と駅の間に立ち、声掛けや交通整理をして学生たちの安全を守っています。（NL編集部）



134組155人の参加があった4年次生 保護者会

4年次生保護者会に155人参加

全学科・専攻を対象とした4年次生保護者会を19日（土）に開催し、134組155人の保護者に参加いただきました。

全体会での副学長挨拶・概況説明、学部長挨拶に続き、各学科・専攻に分かれての分科会、希望者に対しての個別面談を行いました。保護者からは「国家試験対策の模擬試験や就職情報について知ることができました。これからさらに三者面談で相談してきます」という声も聞かれました。

4年生の実習、進路決定、国家試験合格に向けて、保護者と教職員が力を合わせてサポートしていきたいと思っています。

（就職・実習支援課）

教材づくり 学生指導員が主導

全学必修で、1年次前期から2年次前期までの3セメスターにまたがる「アカデミックスキル」科目の最初となる「アカデミックスキルⅠ」が、今年も始まりました。先輩学生による手紙やメールの書き方指導、基調講義、小学生に向けたプレゼンテーションなど多彩な内容で、学びの基盤づくりを目指します。

授業は学部生428人を学科ごとの3クラスに分けて実施。アカデミックスキル支援センターが授業運営からコンテンツ作りまで全面的に関与していきます。

10日（木）と15日（火）の第1回授業では、担当する渡邊淳子教授がⅠからⅢにつながる科目の全体像と意義について説明し、指導に当たるスタッフを紹介。引き続き、授業を支えるリーダー学生の紹介や、学生生活に関する先輩学生の立場からのアドバイスなどをまとめた自主製作の動画2本を連続して上映しました。

動画は、センターを支える学生指導員4人が約2カ月かけて作ったものです。画面を通じ熱く語り掛ける指導員たちの姿を、受講生たちは食い入るように見つめていました。第2回授業以降も、指導員が製作した動画やテキストなどを随所で使用。並行してリーダー学生も募り、研修会を開きながら授業に投入します。（NL編集部）



アカデミックスキルⅠでは、学生指導員が演出・出演する動画教材(写真上)やテキスト(同下)などのコンテンツを開発し、投入しています

平日は20時半まで … 通常開館を再開



図書館だより

新年度になり、4月9日（水）より図書館の通常開館を再開しました。開館時間は月曜日～金曜日は8時50分～20時30分、土曜日は10時～17時です。勉強に、調べものに、図書館をたくさん活用してください。なお、前期定期試験

後の8月から9月までは短縮開館（閉館時間17時）、土曜日は休館になります。

図書館入り口近くの弓型書架には、新入生向けにノートの取り方や、レポートの書き方、一人暮らしについての本など、学生生活に役立つ本を

展示しています。また、本の購入リクエストも常時受け付けていますので、勉強に必要な本や、読みたい本などがありましたら、ぜひマイライブラリからリクエストしてください。

新任教員 私の研究

本年度、本学に赴任した教員の皆さんの研究内容をご紹介します。



松村 剛
医学検査学科教授

これまで、熊本大学医学部で1999年に学位取得後、同大学の代謝内科で主に糖尿病・内分泌・代謝学に関連する研究を行ってまいりました。その中でも特に、糖尿病や脂質異常症での動脈硬化進展の新規機序解明をテーマに、基礎及び臨床の両面で研究を進めました。今後もさらに研究を進め、動脈硬化症の新たな指標となるマーカーの開発や、治療につながる新規機序を見出し、今後の医療の発展に貢献したいと考えております。



磯野さよ子
看護学科助教

これまでに、看護学生や新人看護師のコミュニケーションスキル、患者との人間関係形成技能について研究をしました。その後、新人看護師の成長動機付けとワークエンゲージメントについて、全国的な縦断調査を行っています。また、地域連携や多職種連携の重要性が指摘される中、今後は、臨床から地域まで幅広い視点で看護をとらえ、人々の健康増進やセルフマネジメントについても研究を進めていきたいと思っています。

幅広い視点で看護とらえる

動脈硬化症の新規機序探る

新規採択10件、採択率は32% 本学

日本学術振興会による科学研究費助成事業（科研費）の令和7年度分の交付がこのほど決まりました。本学関係の新規採択は前年度より2件多い10件、継続は20件となっています。新規の申請は31件で、採択率は32%（前年度28%）でした。新規採択研究の内訳は、基盤研究（C）が8件、若手研究が2件です。（NL編集部）

◇本学関係の令和7年度科研費新規採択研究◇

研究種目名	氏名	研究期間	研究課題名	交付予定額(直接経費)合計(千円)
基盤研究(C)(一般)	前田 ひとみ 教授	2025-2027	日常生活での誤嚥の早期発見を可能にするウェアラブルなアセスメントツールの開発	4,800
基盤研究(C)(一般)	水本 豪 教授	2025-2027	脳損傷者及び健常者の言語表出における不完全表象の想起に関する研究	3,600
基盤研究(C)(一般)	黒田 誠 教授	2025-2027	破傷風菌ゲノミクスによる網羅的な毒素発現・環境適応機構の解明	3,500
基盤研究(C)(一般)	上妻 行則 准教授	2025-2028	体外循環時に生じる人工肺内圧の上昇および術後出血を防止するための革新的戦略	3,600
基盤研究(C)(一般)	久松 美佐子 准教授	2025-2028	離島に退院した精神障害者を支える地域包括ケアモデルの構築	3,400
基盤研究(C)(一般)	野中 喜久 准教授	2025-2027	ミッドリアの賦活は坐骨神経挫損傷後「ラット」の運動機能の回復・改善を促進するか？	3,200
基盤研究(C)(一般)	吉村 友希 講師	2025-2028	精神障害領域作業療法における実習の文脈を含んだ授業教材パッケージの開発	3,600
基盤研究(C)(一般)	畑添 涼 講師	2025-2027	高次脳機能障害者の就労適応と定着に向けた包括的評価と効果的な支援内容の検討	2,900
若手研究	田中 恵理 准教授	2025-2028	ジェームズ・ジョイス作品における身体表象一病とケアの観点から	3,600
若手研究	本田 啓太 講師	2025-2028	脳卒中患者の歩行時の代償動作に関する個性の解明と臨床意思決定支援ツールの開発	3,700

高校生に本学の魅力PR 進学ガイダンス

高校生を対象とした進学ガイダンスが18日（金）、熊本城ホールで開かれ、本学をはじめ熊本県内外の大学・専門学校計80校以上が参加しました。

各大学ブースに続々と高校生や保護者が訪れる中、本学ブースも一時、説明待ちの列ができ、入試・広報課の職員が大学の魅力や特徴、入試について熱心に説明していました。

本学ブースを訪れた人たちからは、「医療系の大学に進学したいと思っていた」「現在大学4年で、助産別科について知りたいと思っていた」といった声が聞かれ、列に並んでいる間も大学案内をのぞき込んで情報収集をしていました。

本学が参加する進学ガイダンスは、今後も九州各県で予定されています。（入試・広報課）



高校生（手前）に、本学の特徴や入試について説明する入試・広報課職員

インフォメーション

週間行事予定（4月28日～5月12日）	
4/30（水）	学校法人銀杏学園理事会
5/3（土）・4（日）	フラワー＆フーズフェスティバル@フードパル熊本（健康チェック）

※週刊NEWSLETTER284号は、5月12日(月)に配信します。